青少年　はちのへ
かがみ
青少年健全育成シンボルマーク
八戸市

【発行】　第106号
八戸市教育委員会教育指導課
八戸市内丸一丁目１－１
Tel　43-2111（内6111）
Fax　47-4997
Email　shido@city.hachinohe.aomori.jp
令和５年７月１４日号

皆さんは『ハンド＆サンクス』という言葉を聞いたことがありますか？

「ハンド＆サンクス」とは、横断歩道を渡ろうとする歩行者が手を挙げたり、目くばせして、走行中の車の運転手に「渡る合図」を出して停車してもらい、横断歩道を渡った後に、停車してくれた運転手に対して「ありがとう」とお辞儀をする一連の流れのことを言います。
※ 道路交通法では、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいるのに車が横断歩道前で一時停止しないと「横断歩行者妨害等」の違反になります。

信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況

日本自動車連盟（JAF）が毎年公表している「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況」のデータによると、

青森県は
2021年　停止率　14.0%
2022年　停止率　56.7%
となっています。

青森県内の運転手の間で「横断歩道前の一時停止」の習慣は、徐々に浸透しつつあると言えそうです。
・・・ちなみに、停止率１位は長野県で、２位の兵庫県（57.1%）を大きく引き離し、
2022年　停止率　82.9%　という驚異の数字となっています（７年連続全国１位）。

長野県が停止率１位の理由は、警察では明確な根拠は不明とされているものの、実は、先ほど紹介した「ハンド＆サンクス」の習慣が大きく関係していると言われています。
長野県では、昔から、保護者や学校、ボランティアの方々が子どもと接する中で、「ハンド＆サンクス」を繰り返し教え、実践する習慣があるそうです。
そして、その習慣の中で育った子どもたちが、大人になって車を運転するようになり、自分たちが身に付けてきた「ハンド＆サンクス」を思い出し、「横断歩道前の一時停止」を当たり前のように行っているというわけです。
幼少期から子どもや大人が「ハンド＆サンクス」を通して培ってきた、小さな思いやりの積み重ねが、時を経るにつれて習慣を超え、文化となって継承されていると考えられます。
八戸市内でも、多くのボランティアの方々が青少年のために日夜活動してくださっていますが、そうした活動が、いずれは八戸市の新たな文化として根付くことを信じています。

令和５年度

南部藩 ゆかりの都市との交流事業

開講式

遠野市の街並み

事前研修

本事業は、根城南部氏が約３９０年前に国替えになったという岩手県遠野市など歴史的つながりのある都市との交流を通じ、南部藩の歴史を学び、郷土愛を育むことを目的とした交流事業です。

昭和６２年度から続く事業で、八戸市内の小学校から選ばれた児童が岩手県遠野市などに赴いて南部藩の歴史を学び、現地の同学年の児童と交流してきました。

令和２～４年度はコロナ禍で事業を中止していましたが、今年度から本事業を再開することとなり、令和５年６月２１日、八戸市総合教育センターで本事業の開講式を行いました。

開講式終了後は、八戸市立図書館滝尻学芸員による「八戸と遠野」に関する歴史講話や、初めて対面する児童らの交流を深めるためのレクリエーションを行いました。

遠野でカッパを見つけよう！

八戸市内の小学校から選ばれた児童４０名は、今年の７月、いよいよ岩手県に出発します！

八戸市立図書館 滝尻 侑貴 学芸員による講話

室町時代（690年くらい前）、八戸にやってきた南部氏が「根城」という城を築きました。

櫛引八幡宮にも、遠野市のようなカッパ伝説があります。

根城の21代目のお殿様は「清心尼（せいしんに）」という女性でした。

遠野市に移動することになった南部氏は、八戸から遠野まで４日かけて歩いていきました。